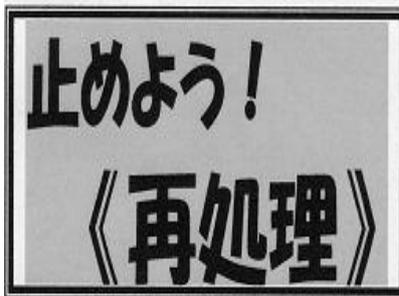


三陸の海を放射能から守る
岩手の会 (略称) **三陸の海・岩手の会**
郵便振替 02240-5-102650
ホームページ 《再処理 / 岩手の環境》
<http://sanriku.my.coocan.jp/>
《本紙の全バックナンバー掲載》



《天恵の海》

2022(令和 4年)
8月 3日
第235号
編集事務局 S.Oshida
TEL・FAX 019-623-1636

六ヶ所再処理工場 7月2日

高レベル放射性廃液 供給液槽の冷却機能喪失! 8時間にわたって危機的状況



2022/7/16 六ヶ所村泊で街宣
六ヶ所村の新しい風

全国民に訴える!

2 YouTube【22/7/16 六ヶ所村泊街宣】と入力。
『六ヶ所村の新しい風』 動画 10分

七月一六日、市民団体の「六ヶ所村の新しい風」は、事故を受けて六ヶ所村泊漁港で街宣を行いました。共同代表の遠藤順子さんは「私たちは先月の村長選挙で、再処理工場は非常に危険であり稼働させてはならないと訴えました。その選挙後、高レベル廃液の冷却が停止するという事故が起きました。あと一五時間冷却が止まれば、住民を危険にさらす重大事故になりました」と訴えました。

村長選挙に立候補した山田清彦さんは、「この冷却停止事故がもし回復出来なかったならば、沸騰が始まり放射能が環境に漏れ始めます。高レベル放射性廃液がたった一立方メートル漏れても、遠く離れた名古屋付近でも、一カ月で一年分の法的許容量を超える被ばくをもたらす、と計算されています。六ヶ所再処理工場の今回の冷却機能喪失事故は、全国民の命と安全に係る重大問題です」と訴えました。

今回の放射性廃液冷却機能喪失事故は
全日本国民の命と生活を危険にさらした

七月二日、一五時三十分から約八時間、六ヶ所再処理工場の高レベル放射性廃液の安全冷却機能が喪失するという事故がありました。日本原燃は、二系列ある冷却設備のうちA系列は工事中で停止していたが、動いているはずのB系列の「供給液槽」の仕切弁が閉じていたことと同日夜の廃液の温度上昇によって気づき、当直員が該当仕切弁を開き冷却を回復させた、と公表しました。

高レベル放射性廃液は冷却機能が失われれば、含有核種の崩壊熱で液温が上がり、沸騰が始まれば水蒸気に着した放射性核種が環境へ放出され、乾固後は化学反応で爆発する可能性があります。住民や市民団体、政党から抗議の声が上がっています。

*日本原燃は七月一九日「事故報告書」を公表しました。その内容と評価については次号に掲載します。

なくそう原発・核燃、 あおもいネットワークが 抗議・要求文

廃液冷却喪失事故を起こした
日本原燃は許されない!

七月八日、青森県内の市民と諸団体で構成する「なくそう原発・核燃、あおもいネットワーク」(共同代表 浅石紘爾 大竹進 鳴海清彦の各氏)は、このようなヒューマンエラーが起きたのは、絶対に看過出来ない事態であるとして、(株)日本原燃と原子力規制委員会、青森県知事に対して、抗議・要求文を提出しました。その要旨は以下の通りです。

県民への謝罪と

説明がない!

日本原燃は今回の冷却機能喪失事故を「二番危険なA情報」に該当するとして報告した。六ヶ所村には約二〇〇立方メートル、重大事故に繋がる放射性廃液が保管されている。このような危険物管理についてヒューマンエラーを起こした日本原燃に三次に渡り厳重に抗議する。

一、八時間にもわたり冷却機能を喪失したこと。
二、自治体への報告が事故発生後一二時間と遅れたこと。
三、県民に対するその後の説明と謝罪がないこと。

(表面からの続き)

規制委員会 原燃 青森県は安全対策の見直しを！安全審査をやり直せ！

さらに日本原燃、原子力規制委員会、青森県へ三点を要求する。

一、日本原燃は県民に対して、出来るだけ早く事故の詳細な経過説明とすべての情報公開を行い、危険な廃液のヒューマンエラー対策に取りかかり安全管理を徹底すること。二、原子力規制委員会は

日本原燃ホームページ プレスリリース

①7月3日：再処理工場高レベル廃液ガラス固化建屋における供給液槽の安全冷却機能の一時喪失について (説明の要点) 7月3日2時26分に、廃液の供給液槽の安全冷却機能が一時喪失していた事を確認。冷却設備は2系列あるが、A系列は工事中のため停止中で、運転中のB系列の仕切り弁が閉鎖されたため、2系列が7月2日15時31分から23時44分までの、約8時間停止した。23時44分に当直員が仕切り弁を開け、安全冷却水の流量が復帰し機能が回復した。

日本原燃ホームページ プレスリリース

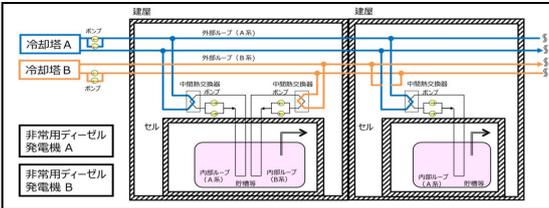
②7月8日：再処理工場高レベル廃液ガラス固化建屋における供給液槽の安全冷却機能の一時喪失に関わる法令報告について (説明の要点) 「核原料物質、核燃料物質、原子炉の規制に関する法律第62条の3」の「報告事象」に該当すると判断し規制委員会、青森県、六ヶ所村に報告した。発生当初 連絡責任者は 供給液槽の廃液温度が25℃～30℃であるところ、32℃までの上昇であり、有意なものと捉えなかった。その後温度上昇は、仕切り弁の閉鎖に伴って安全冷却水の供給が停止したことによること、温度上昇が継続していた状態から有意なものと捉えた。異常事象対応会議で検討し再処理事業部長を経て法令報告該当とした。

安全審査を行い「事業変更許可」を出したが、今回の事故に大きな責任がある。今からでも事件・事故を含む重大事故の安全対策の再審査を行うこと。「認可申請を一旦から出直す」よう日本原燃に求めること
三、青森県は、事業者からの説明をすべて公開したうえで、青森県の安全対策への姿勢に問題があったことを認め、今後県独自の調査を行い、県民に対する公開説明会を数か所で行い、県民に謝罪すること。

高レベル放射性廃液 供給液槽 冷却中断8時間事故！ 原燃8日広報等に関する疑問報告 から

当会のホームページに掲載中 (URLは一面 題字欄)

図1 冷却水循環図



廃液貯槽タンクの崩壊熱除去のために、冷却中断を絶対に起こさないため、AとBの2系列の冷却液循環パイプが設置されています。当日A系は工事のため冷却水停止中でした。その非常事態に、残るB系の冷却水の仕切り弁の一つが、止められていました。

4つの疑問

- ①高レベル廃液の温度はもっと高いのではないかと？ …高レベル廃液は常時崩壊熱を発生しており冷却しても「24℃」などの低温ではないのではないかと。(図3では40℃くらいです。*矢印)
- ②今回の「閉鎖していた仕切り弁」は冷却系Bに接続している「アルカリ濃縮中和槽」、「高レベル廃液混合層」、「供給槽」には影響しなかったのか？ …言及がありません
- ③高レベル廃液の核種と放射エネルギーを知りたい。…もし沸騰が始まった場合、放射能が環境放出される。供給液槽には抽出希釈用有機物等と核種による生成錯体の分解や硝酸塩の酸化による爆発が起こりやすい。
- ④二系列の冷却系統の一方を停止し、B系列のみの片肺冷却運転を行っていたとすると？ …それだけでも非常事態であったはずだが。

六ヶ所再処理工場において高レベル放射性廃液貯槽の冷却が中断するという事故は発生しませんでした。この事故のニュースは何にも増して国民注視のもと、その事故の実態と発生原因の詳細が必要と見られます。アクティブ試験開始以来六ヶ所再処理工場を監視して来た本会として、事故が報道された七月一三日時点で、当会ホームページに公開しました。報告文掲載の3つの「図とグラフ」を紹介し、要約に換えます。

図5 高レベル廃液混合槽

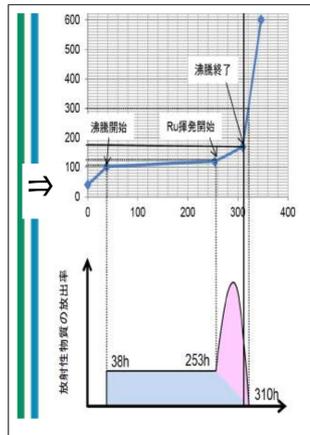


図3 冷却喪失と沸騰までの時間

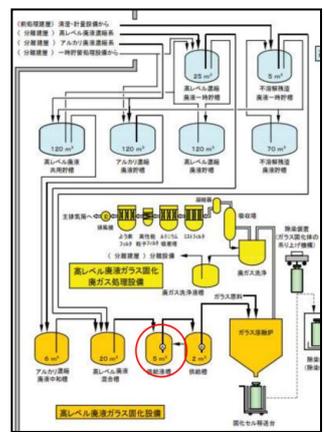


図2 廃液貯槽の配置図

上図は高レベル廃液混合槽の例です。沸騰開始時間38時間、ルテニウム放出まで235時間と記載。しかし他の資料では各々24時間、161時間とあり混乱しています。

高レベル廃液がどのような流れで供給され、ガラス熔融炉に入って固化されるのかが、わかります。今回冷却停止したのは赤丸の供給液槽です。その一つ手前が図3の混合槽です。